

むささび

第41号

令和2年10月9日発行

JForest 北信州森林組合

〒383-0061 中野市大字壁田938-1

TEL:0269-38-0371 FAX:0269-23-5350

URL <http://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>

E-mail musasabi@jforest-kitashinshu.or.jp



8月6日に長野市で開催された長野県SDGs推進企業登録制度第4期・第5期登録証交付式で阿部知事を囲んで記念撮影



組合ホームページもあります。ぜひ、ご覧ください!
<http://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>
 スマートフォン対応となっています。

主な内容

長野県SDGs推進企業に登録…………… 2

SDGs達成に向けた宣言書…………… 3

SDGs(持続可能な開発目標)とは

SDGs(持続可能な開発目標)について…………… 4

SDGs持続可能な開発目標…………… 5

中野市豊田小学校・中学校に下駄箱を納品… 6

地域の山林紹介⑩…………… 7

豚熱(CSF)のイノシシ見つかる…………… 8



長野県SDGs推進企業登録制度は、県内企業等がSDGsと企業活動との関連について「気付き」を得るとともに、具体的なアクションを進める「登録」制度です。

県ではSDGsのゴール等につながる具体的な取組を提示し、提示内容を踏まえ具体的なアクションに取り組む企業等を登録し、オリジナルの登録マークの提供やホームページ等による公表を通して応援しています。

当組合では、本年4月からの第5期登録に申請し登録となりました。8月6日（木）に長野市のホテル国際21で開催されました「長



他の出席者とともに記念撮影が行われました。（右から4人目が組合長）

野県SDGs推進企業第4期・5期合同登録証交付式に組合長が出席しました。今回はコロナ禍で開催が延期されていた第4期登録企業と合同の開催となりました。



第4期登録が145者、第5期登録が101者あり、その内の139者が出席しての開催となりました。

阿部知事が挨拶の中で、新型コロナウイルスの感染は防がなければならないが、経済活動が停滞することがあつてはならないとして、何でも中止すべきではなく、しっかり三密対策をして経済活動を行うべきと考えている旨の発言がありました。

そのため、今回の交付式も三密対策がしっかりと行われて開催されており。また、知事は出席者全員との記念撮影も各個をアクリルボードで保護してマスクなしで行われました。（表紙の写真）



コロナ禍の中でソーシャルディスタンス（社会的距離）を取って行われました。

会場の三密対策としては、出席に際してのマスク又はフェイスシールドの着用、受付での検温、会場ホール内へは各社で代表者1名のみ入室とされ、随行者には、撮影での入室も許されませんでした。

また、これまでの交付式では知事を全出席者が囲んで記念撮影が行われていましたが、今回は16グループに分けて少人数で感染防止策を施しての撮影となりました。

閉会後に各者ごとの記念撮影が許されましたが、その際にも入室する随行者の受付と検温が行われ、撮影も順番によりソーシャルディスタンスを取つての撮影となりました。

SDGs 達成に向けた宣言書（要件1）

北信州森林組合は、SDGs の内容を理解し、SDGs 達成に向けた方針及び取組を下記のとおり宣言します。
SDGs 達成に向けた経営方針等

当組合では次の方針を掲げ SDGs の達成に貢献していきます。

- (1) 効率的かつ安定的な林業経営による、組合員の経済的利益の向上
- (2) 林業・関連産業の活性化による、地域社会の活力創造
- (3) 森林の持つ多面的機能の高度発揮による、国民生活への貢献

3側面（主な分野に○）	SDGs 達成に向けた重点的な取組	2030 年に向けた指標	重点的な取組及び指標の進捗状況 登録年月日：R 2.7.31
○環境 ○社会 ○経済	間伐材生産のほか主伐再造林を進め、地域の森林の多面的機能の維持を図ります。	主伐再造林 2019年 4ha ↓ 2030年 20ha	
○環境 ○社会 ○経済	森林の境界明確化を進めます。	境界明確化（実施済数） 2019年 6000ha ↓ 2030年 9000ha	
○環境 ○社会 ○経済	地域への貢献	里山リーダー研修等への協力	地域内の里山整備利用地域での活動への支援等

SDGs（持続可能な開発目標）とは

(SDGs : Sustainable Development Goals)

開発アジェンダの節目の年、2015年の9月25日－27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳に参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。

令和3年度から始まる、次期森林組合系統運動の基本方向として『森林組合の活動は目標15「陸の豊かさを守ろう」をはじめ、SDGsを構成する多くの目標達成に貢献しており、森林組合系統としても自らの活動にSDGsを明確に位置付けるとともに、その達成への貢献を積極的に発信する必要がある。』とされており、北信州森林組合では地域の森林・林業の担い手として、宣言書に掲げた取組を進めてまいります。

SDGs 達成に向けた具体的な取組（要件2）についても、ホームページで公開しています。



SDGs（持続可能な開発目標）について

SDGs の構造

17 の目標は、①貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ、②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ、そして③地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境アジェンダといった世界が直面する課題を網羅的に示しています。SDGs は、これら社会、経済、環境の 3 側面から捉えることのできる 17 の目標を、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

SDGs の特徴

前身の MDGs（Millennium Development Goals：ミレニアム開発目標）は主として開発途上国向けの目標でしたが、SDGs は、先進国も含め、全ての国が取り組むべき普遍的（ユニバーサル）な目標となっています。（図 1）しかしながら、これらの目標は、各国政府による取組だけでは達成が困難です。

企業や地方自治体、アカデミアや市民社会、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められている点が SDGs の大きな特徴です。まさに SDGs 達成のカギは、一人ひとりの行動に委ねられているのです。

（図 1）



人間の安全保障との関連性

我が国は脆弱な立場にある一人一人に焦点を当てる「人間の安全保障」の考え方を国際社会で長年主導してきました。「誰一人取り残さない」という SDGs の理念は、こうした考え方とも一致するものです。

SDGs 達成に向けて

2019年9月に開催された「SDG サミット」で、グテーレス国連事務総長は、「取組は進展したが、達成状況には偏りや遅れがあり、あるべき姿からはほど遠く、今、取組を拡大・加速しなければならない。2030年までをSDGs 達成に向けた『行動の10年』とする必要がある」とSDGsの進捗に危機感を表明しました。

2020年、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に地球規模で拡大したことから明らかなように、グローバル化が進んだ現代においては、国境を越えて影響を及ぼす課題に、より一層、国際社会が団結して取り組む必要があります。

SDGs 達成に向けた道のりは決して明るいものではありません。だからこそ、「行動の10年」に突入した今、私たち一人ひとりにできることをしっかりと考え、一歩踏み出す姿勢が求められています。

持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組（外務省）から

SDGs 持続可能な開発目標



目標1：【貧困】 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

目標2：【飢餓】 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

目標3：【保健】 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

目標4：【教育】 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

目標5：【ジェンダー】 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

目標6：【水・衛生】 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

目標7：【エネルギー】 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

目標8：【経済成長と雇用】 すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

目標9：【インフラ、産業化、イノベーション】 レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

目標10：【不平等】 国内および国家間の不平等を是正する

目標11：【持続可能な都市】 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

目標12：【持続可能な消費と生産】 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

目標13：【気候変動】 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

目標14：【海洋資源】 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

目標15：【陸上資源】 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

目標16：【平和】 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

目標17：【実施手段】 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

中野市豊田小学校・中学校に下駄箱を納品

中野市豊田地区にあります豊井小学校と永田小学校が、来年4月に統合されて豊田小学校となります。現在、豊田中学校に併設される形で、新しい小学校校舎の工事が行われています。

当組合では、教育委員会から豊田小学校と豊田中学校の昇降口に設置する木製下駄箱の注文依頼を受けました。昨年、豊田地区の南永江の山林で間伐を続けておりまして、この下駄箱は、その間伐材を使用して製作しました。

春先にスギの間伐材を中野市内の中澤木材さんに納品して、製材、乾燥、モルダー加工され、下駄箱へと組上げたものです。

今回の発注は、間伐事業とも日程が合いましたので、地元中野市豊田地区の木材で製作することができました。

小学校、中学校と子供達に長い期間使用されることとなりますが、愛着を持っていただければと思います。



小学校新校舎の木製下駄箱



中学校新校舎の木製下駄箱

事前学習の様子



焼印押しの様子



閉校となる両小学校の思い出に

・・・24時間テレビでも放送される・・・

下駄箱製作にあたって、子供達が直接参加する機会をということ、柵板張りを8月に企画していましたが、市内での新型コロナウイルス感染が発生したことから急遽中止となりました。

柵板張りにあたり、7月に豊井・永田の両小学校の4～6年生に間伐作業から製材までの事前学習をしましたので、何か子供たちの記念に残してやりたいということから、両小学校で柵板への焼印押しを行いました。

子供達も、これから自身が使うことになる下駄箱製作に参加できたことを楽しんでくれたようでした。

この事前学習と焼印押しについては、両校ともにテレビ信州さんの取材を受けまして、「24時間テレビ」の中で県内向けに放送されました。また、「テレビ信州の伝えよう里山ものがたり」でも2回に亘って放送されました。閉校となる両校の思い出の一つになれたらと思います。

地域の山林紹介⑬

北信濃ふるさと森文化公園（中野市）

北信濃ふるさと森文化公園は、「人と自然」をテーマにした総合公園で平成3年5月1日に開園以来、市内外から多くの利用者に親しまれております。

公園内の施設には、温室・昆虫館、サマーボブスレー（546m）、マレットゴルフ場（36ホール）、オートキャンプ場（5区画）、多目的グラウンド（7,000㎡）、デイキャンプ場（バーベキュー）、冒険の丘（アスレチック遊具13種）、こどもの国（ローラー滑り台、バッテリーカー、キックボード等）、遊歩道等があり、特にサマーボブスレーは夏休み期間中ともなれば乗り場には多くの家族連れでにぎわっております。

総面積は18ha、営業期間は4月から11月です。

イベントとしては、5月に「新緑まつり」を10月には「オータムフェア」を開催し、フリーマーケット、軽食の販売や花苗の無料配布等を開催しておりますが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止としました。

また、冬期間にはサマーボブスレー乗り場にイルミネーションの飾りつけを行い魅力アップに努めております。

本年度は北信州森林組合のお力添えを賜り中野市街地が一望できる「展望テラス」を市立博物館駐車場東側に整備させていただきました。是非一度眺望をご覧いただきたいと思っております。

今後とも桜の木の植栽や遊具の整備など魅力アップに努めてまいります。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



オートキャンプ場(有料)

北信濃ふるさと森文化公園

支配人

斉藤

武美



大人気の
サマーボブスレー(有料)



フィールドアスレチック(無料)
冒険の丘



マレットゴルフ(有料)



ニジイロクワガタ

ヘラクレスオオカブトムシ
昆虫館(有料)

豚熱(CSF)のイノシシが見つかる

山ノ内町の山中で発見されました。

山ノ内町で発見されたイノシシの死骸から豚熱(CSF) ウイルスの陽性が確認されました。

これまで、死骸2個体と捕獲1個体、計3個体から陽性が確認されています。管内では初めての確認となります。これまで、周辺の信濃町と高山村でも確認されており、管内への伝染も時間の問題と想っています。山ノ内町での確認となりました。

管内には飯山市の「北信州みゆきポーク」と中野市の「神農ポーク」の養豚場があり、それらへの影響が心配されます。



●：陽性地点

長野県ホームページから

地域の養豚を守りましょう。

昨年、長野県で豚熱が確認されたから、当組合では感染防止に万全を期しているところです。

長野県北信地域振興局林務課から指導をいただいて、入口には消石灰を撒いて自動車の感染防止をしたり、玄関には靴底の消毒薬を用意して、職員はもちろんのこと来所される皆さんにも対応をお願いしております。

また、これは本所だけではなく、飯山の事務所や、山ノ内町の赤坂林産事業所(中間工場)、木島平村の千石造林事業所でも同様に行っていました。

今回の山ノ内町での感染確認を受けまして、より徹底するようにしています。皆さんも山に入りましたら、靴底の土を落して、里に持ち帰らないようにしてください。



消石灰を撒いて感染防止

豚熱(CSF)とは、どんな病気？

CSF (Classical swine fever) は、CSF ウイルスの感染による豚とイノシシの病気です。強い感染力と高い致死率特徴で、家畜伝染病予防法において家畜伝染病に指定されています。このため、発生した農場では、飼養豚等を対象に防疫措置を行うこととしています。

また、CSFは豚とイノシシの病気ですので、人には感染しません。

感染防止対策としては、車については、出入口等に消石灰を撒く、靴底の土は現地で落とし、またスポンジ等に消毒液として逆性石鹼(パコマ500倍希釈液)を湿らせて消毒したり、噴霧器で靴底やタイヤに噴霧して防除します。

山に入る方は、必ず感染防止対策を行ってください。

編集後記

今年は、新型コロナ禍で様々なイベントが中止となり、当組合でも予定していた行事を取りやめています。

そんな中で、SDGsの特集号のような発行になりました。テレビなどで、政治家などの胸に色とりどりの丸いバッヂを、皆さんも見たことがあるのではないのでしょうか。

本号で少しでも関心を持っていただければと思います。

本所

〒383-0061

中野市大字壁田938番地1
TEL 0269-38-0371(代)
FAX 0269-23-5350

利用事業室

〒389-2255

飯山市大字静間383番地14
TEL 0269-62-8111
FAX 0269-67-0120